様式５

学校番号 特５

令和６年度　学校評価書　（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

福岡県立古賀特別支援学校

自己評価

学　校　運　営　計　画（４月）

学校運営方針	社会生活に必要な基本的生活習慣、基礎的・基本的な能力を育成するとともに、社会の一員として主体的に考え行動し、自立しようとする実践力を有し、健やかで心豊かな人間の育成を目指す。		評価（総合）
昨年度の成果と評価	年度重点目標	具体的目標	
個別最適な学びを充実させるために、実態把握に基づいた授業づくりに取り組み、一人一授業を実施することができた。教育課程実践交流会実施に向けて、学校研究を推進し、各教科等の学びをつなげる指導の工夫を考え、自ら進んで表現する力を育成するための授業づくりに取り組む。また、年間指導計画の内容を整理し、系統的な指導と個別最適な学びと評価の充実を図る。 人材育成のため福岡県教員育成指標に則った研修や授業力向上のための相互授業参観、専門性向上のためのＯＪＬタイム等の研修体制を整備する。 本年度も防災安全対策及び感染症拡大防止対策等を継続して講じ、安心・安全に学ぶための教育環境作りを推進する。 本校の特色であるチーム制における指導・支援のさらなる充実・深化を図るため、適正規模等の新たなチーム体制の検討を始める。	Ⅰ　個別最適な学びの充実	一人一人の実態把握に基づく、小中高の連続性を重視した系統的な指導及び評価の充実	
		カリキュラムマネジメントによる教育活動の充実	
		小中高一貫したキャリア教育の充実	
	Ⅱ　人材育成と専門性の向上	福岡県教員育成指標に則った専門性の向上の実践	
		児童生徒一人一人の生徒理解に応じた、対応力の向上	
		ＩＣＴを活用した指導の充実に向けた実践的研修の充実	
		教職員の人権感覚の醸成	
	Ⅲ　チーム制を基盤とした組織マネジメントの活性化	チーム会を軸とし、チーフ会、企画会、学部主事等会との連動による組織への一体感の醸成	
		児童生徒の支援や対応等学部やチーム間での連携	
		新たなチーム制に向けての体制づくり	
	Ⅳ　安心・安全に学ぶための環境作り	安心して学べる教育環境作りの推進	
		迅速な初期対応実践のための危機管理マニュアルの改善	
		社会情勢に応じた感染症等への迅速な対応	
		災害から身を守るための防災教育等の充実	
	Ⅴ　知的・病弱教育部門におけるセンター的機能の充実	特別支援教育のセンター的機能充実のための組織的支援体制の整備	
		病弱教育における相談機能の充実	
		多様なニーズに対応するための関係諸機関との連携強化	

評価項目		具体的目標（学校GD）	具体的方策	評価（３月）	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務課		小中高の系統的・継続的な指導と学習評価の充実（Ⅰ②）	教科・作業班別ミーティングを計画的に実施し、指導内容の見直しを行う。				
			学習指導要領に沿った、各教科等で目指す姿と身に付ける力を整理する。				
		カリキュラムマネジメントによる教育活動の充実（Ⅰ①）	年間指導計画と個別の指導計画による指導の評価と改善の流れを体系化する。				
			高等部時制の課題整理と、教育内容と時数の妥当性を検討する。				
相談支援課		外部機関との連携につながる教育相談会等の行事や職員研修の企画運営（Ⅴ③）	他機関と連携し、課内研修及び職員研修を実施する。				
			各行事を周知徹底するために、教育委員会への文書の配布や学校ホームページを活用する。				
		巡回教育相談員の育成を目指した教育相談体制の整備（Ⅴ④）	体験学習、入学説明会を全職員で協力して行うとともに、計画的に課内研修を行う。				
			コーディネーターが相談等の管理・運営を進め、複数体制での教育相談業務の機会を設ける。				
進路指導課		小中高一貫したキャリア教育の推進（Ⅰ⑤）	発達段階に応じた学習をキャリアパスポートに反映させて学びの連続性を図る。				
			外部人材と連携し、進路相談等の充実を図り、進路に関する児童生徒や保護者、職員の意識を高める。				
		自立や社会参加を促す進路学習・情報発信の充実（Ⅰ⑤）	保護者学習会や職員研修を定期的に実施する。				
			卒業生をロールモデルに卒業後の生活の質や豊かさを高める指導を計画実施する。				
庶務広報課		ＰＴＡ活動の円滑な運営（Ⅳ③）	ＰＴＡ業務や行事の整理・精選を行う。				
			ＰＴＡ役員・専門部員・管理職・庶務広報課の連携を図る。				
		新しい業務内容の把握と運用（Ⅲ⑤）	情報課・進路課・研修課からの引き継ぎと業務内容の記録の徹底を行う。				
			庶務広報課全体の業務内容選定や分担の調整を実施する。				
児童生徒指導課		安全安心な学習環境の整備と児童生徒の特性に応じた指導（Ⅳ③）	社会情勢や学校の現状を踏まえ、防災安全等のマニュアル作成や見直しを行う。				
			多様化する生徒指導上の事案に対応するために、チーム間、学部間で情報共有を図り、迅速な対応に努める。				
		いじめ等の未然防止と組織的な対応の強化（Ⅳ①）	長期休業中の職員対象の研修や各種委員会の円滑な運営に努める。				
			全職員でいじめ等の未然防止、早期発見等に努め、定期的ないじめアンケート実施等を行い、いじめ見逃しゼロを目指す。				
保健給食課		安全に対応するための整備の充実（Ⅳ②）	環境整備係を中心に整備の充実を図る。				
			栄養教諭や給食指導係が中心となり食育を積極的に行っていく。				
		教職員の病気や障がい等に関する知識・理解を促す研修の充実（Ⅱ③）	緊急対応確認会の実施方法について検討し早い段階で全チームが行えるようにする。				
			研修を精選し、夏季研修等で教職員の共通理解を図る。				
情報課		学習の定着と学びの保障のため、興味・関心に基づいたICT機器等の工夫と活用に向けた研修の充実	ICT活用に係る職員研修会の実施と、情報機器やアプリ活用に向けたマニュアル作りを行う。				
			有効なアプリの精選と、ICT活用プランシートの活用方法の計画・実施を行う。				
		重要情報漏洩及び視聴覚・情報機器の破損・紛失防止のための取組と情報管理の強化（Ⅳ⑤）	情報機器等を適切に管理できる体制を明確にする。				
			情報セキュリティに関する啓発及び研修会を実施する。				
研修課		教育課程実践交流会に向けた学校研究の推進（Ⅱ②）	学校研究について、全職員に主題や計画を周知するとともに実施する。				
			教育課程実践交流会に向けて教務課と連携して計画的に取り組む。				
		人権意識や指導力等の向上（Ⅱ⑤）	人権教育推進委員会と連携し、人権・同和教育に関する授業の推進や、教職員の人権感覚を高める取組を行う。				
			人材育成委員会と連携した指導力等を高める取組や、校内研修の整備を行う。				
知的障がい教育部門	小学部	日常生活に必要な基本的生活習慣、基礎学力の向上と個別最適な学びの充実（Ⅰ②）	チーム間の系統的な指導が行えるように、国語と算数の年間指導計画の作成に取り組む。				
			「個別の指導計画」をもとに各教科等における、指導・支援を計画し、個に応じた適切な指導・支援を行うことができたかを毎学期評価し、改善する。				
		教師間の連携協力とチームOJL等による人材育成や専門性の向上（Ⅱ①）	若年教員や中堅教員の授業参観や協議会、教員相互の授業参観期間での取り組みに、一人一回は参加する。				
			昨年作成した「かかわり方振り返りシート」を活用し、チーム内や学部内で振り返りや確認を行う。				
	中学部	研修会や学習会等の時間の確保や体制づくり、風土づくりによる人材育成と専門性の向上（Ⅱ①）	若年教員研修の授業や協議会等にチームや学年全体で積極的に関われるよう、バックアップできる体制を作り、人材育成と専門性の向上を実践する。				
			生徒一人一人の実態を考慮した支持的風土づくりについて、常に職員間で共通理解を図り、お互いを尊重し、雰囲気作りを大切にする。				
		他学部、他チームとの連携と、業務の可視化、平準化、効率化（Ⅲ⑤）	教師の専門性や特性・能力等を生かし、学部・チーム内でのそれぞれの役割や業務を整理して可視化する。				
			他チームと連携しながら、組織的に取り組むとともに、教材や資料を適切に保管、管理して効率化を図る。				
	高等部	学びの情報共有の充実（Ⅰ②）	学習活動や学年行事などを通して、生徒の頑張りや取組の成果などをチーム会などで共有し、個に応じた系統的な学習を行い進路指導へ繋ぐ。				
			分掌やチームにおける各教職員の求められる役割と目的を明確にし、よこのつながり、たてのつながりを意識した教職員間の連携を充実する。				
		安心できる環境づくり（Ⅲ④）	個別の教育支援計画などを基に生徒の実態を共有し、意見や質問など発言しやすい会議の実現を目指す。				
			教職員による共感的、受容的な言葉掛けの実践に学部全体として努める。				
病弱教育部門	中学部	学習の定着と学びの保障のためのICT活用と学習活動、指導形態の工夫（Ⅰ③）	ICT教材やアプリケーションを活用し、書字やコミュニケーションの困難さへの対応や体調に合わせて学習が継続できるような工夫をする。				
			心理不安が大きい生徒について、教員との信頼関係を築き、学校生活へ少しずつ慣れることができるようにする。				
		生徒理解に基づく病弱教育専門性の向上と人材育成（Ⅱ②）	授業改善に向けた学校研究を計画に行い、教務課、研修課と連携しながら実践交流会分科会の準備・運営を協力して進める。				
			九病連、全病連大会への参加（分科会発表担当）や県肢病研への参加（講座担当、各部会）を通して知見を広める。				

学校関係者評価

評　価（総合）	自己評価は Ａ　：　適切である Ｂ　：　概ね適切である Ｃ　：　やや適切である Ｄ　：　不適切である

自己評価及び関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・

評価項目以外のものに関する意見